

ごあいさつ



大洗町長

国井 豊

わが町における「原子の火」は、昭和38年日本原子力研究所を誘致し、昭和43年3月に材料試験炉が臨界達成したことにより灯した火です。

原子力研究施設の存在が当たり前の環境で育ち、地域との共生が理想的に成立している大洗町ですが、福島第一原子力発電所事故後の世論の潮流は、理解ある町民性によって育まれた信頼に対しても少なからず影響を与えるほどのかつてない逆風といえます。

国際公約である2050年カーボンニュートラルを目指す上で、安定したバックアップ発電に世界一厳しい安全基準で運用する原子力技術を活用していくことは、極めて自然な流れであります。自然エネルギーのみでは天候などに左右されるリスクが増しますが、それを補うことが出来るのは原子力発電にほかなりません。

住民の安全と安心が担保されることを大前提に、国のエネルギー政策、原子力政策の一端を担う誇りと矜持を持つことも必要なのではないのでしょうか。

今後とも原子力研究開発施設との共生に努めていく大洗町としては、町内の原子力施設の概要や万が一の際の対応を、町民の皆さんにいま一度幅広くご認識いただくために、この「大洗町の原子力」を発行いたしました。ぜひ、保存版としてお手元に置いてご覧・ご活用いただければ幸いです。

